

北海道大学大学院 理学研究院 名誉教授

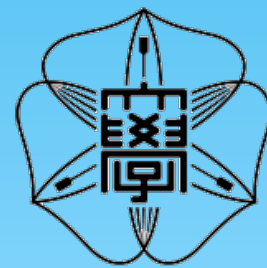
石川 健三 先生 講演会

理解が進んだ質量と光

自然科学の基礎となっている古典物理学ならびに現代物理学の体系を簡単にまとめ、最近大きく進展した基礎物理のいくつかの事柄を解説する。物理学の様々な場所で、質量と光(電磁波)が、重要な働きをしてきた。質量は、力が加えられた物体の加速度を決定する各物体に固有なものであるが、また万有引力の大きさに比例する。質量は、長い歴史を持つ一方で、基礎物理学の研究対象でもあり、最近大きな発展をみた。物質を構成する陽子、中性子や、電子の質量の起源となる素粒子(ヒッグス粒子)が、大きな加速器の実験で発見され、ニュートリノの質量が、電子の8ケタ程小さな値であることが発見されたことである。また、質量を持たない光は、電荷や電流間の力の起源となっている。そのため、物質から大きな影響をうけ、観測や測定の手段になると共に、太陽エネルギーを地球に運搬する役割を担っている。光に関しても、最近様々な進展がある。質量と光に焦点をあてて、物理学を簡単にまとめる。



http://costep.open-ed.hokudai.ac.jp/like_hokudai/



多数のみなさまのご来聴を
お待ちしております。

日時 平成28年 4月25日(月) 16:00-17:30

会場 理工学部1号館2階 第2番 教室

連絡先: 御領潤(理工・数物)
jungoryo@hirosaki-u.ac.jp